

絵本塾 2016年
おはなしのへやだより 12月



世のひと忘るな、クリスマスは
神の御子イエスのひととなりて、
みすくいたまえるよき日なるを。
よろこびとなぐさめのおとづれ、
きょうここにきたりぬ。

讃美歌第二編128
原 恵 訳詞

クリスマス・イルミネーションに彩られる季節となりました。星の輝きを消すように、冷たい夜空でイルミネーションが輝いています。12月は光の祝祭、“世の光”としてこの世においでになったイエス・キリストのお生まれを喜び、祝う時です。ご一緒にお祝いしましょう。

2016年の絵本塾・おはなしのへやにご参加くださってありがとうございました。絵本をご一緒に楽しみ、考え、語り合い、共にお子さまたちの成長を見守っていきたくて願っています。2017年もご参加をお待ちしています。皆さま、よいお年をお迎えください。そして、絵本塾・おはなしのへやでお会いしましょう。

2017年 1月のご案内

日時 1月13日(金) 午前10:30~12:00 昼食
場所 日本キリスト改革派 浜松教会 (お問い合わせ:望月鈴子へ)
(432-8022) 中区山手町45-3 ☎:053・453・1694
会費 500円(一人でも親子何人でも) 講座、昼食、お便り

<Part I> 一緒に遊ぼう <Part II> 絵本から考える
手遊び、リズム遊び 絵本:いいおかお 文・松谷みよこ
絵本 画・瀬川 康夫
パネル・シアター 他 童心社
テーマ:“いいおかお” 忘れないで!



心に語りかける絵本

人の評価に左右されないで生きる

私たちが生きているこの社会は、さまざまな形でお互いを評価し合っている社会と言えるでしょう。何かができる、出来ない、学校の成績、仕事ができる、貧富、家柄、姿・形・・・ありとあらゆる事が評価の対象となります。人としての価値が本当にこのような評価の中にあるのでしょうか。もし、そうだとすれば生きること虚しさがつきまとうのではないかと感じてしまいます。とは言え、現実には他人の評価に一喜一憂し、落ち込んだり、誇ったりしてしまうのが私たちの姿であり、弱さでもあるのかなと考えます。

絵本:たいせつなきみ
マックス・ルケード
セルジオ・マルチネス 絵
ホーバード・豊子 訳
いのちのことは社

自分を人と比べて落ち込んだり、誇ったりする人間の姿を、アメリカの牧師であり人気作家でもあるマックス・ルケードさんが誰にでもわかるように絵本にしたのが「たいせつなきみ」です。

木で作られた小人の国の世界では、みんな金ぴかのお星さまシールと灰色のだめじるしシールを持ち歩いていて、町じゅうどこでも毎日毎日、お星さまとだめじるしをくっつけこしてくらしています。かわいかったり、才能があつたりする小人たちは金の星シールを貼ってもらい、傷がついていたり、ぶきつちよだつたり失敗ばかりの小人はきたないだめシールを貼られるのでした。

主人公のパンチネロはだめシールだらけ。「どうせぼくはだめなんだ」とつぶやいて、同じようにだめシールばかりの小人と一緒にいました。ところが、ルシアという女の子の小人には金の星シールもだめシールもなんにもついていないのです。誰かがくっつけようとしてもくっつきません。パンチネロは「あんな自分になりたいな」と思いました。金の星シールもだめシールもくっつかないとは、「他人の評価に左右されない」ということではないでしょうか。「人の評価」に左右されない自分になれば、生きにくさから解放されますね。

人はどうすればこの「評価される」生きにくさから解放されて自由になれるのでしょうか。高い学歴を身に付ける、スキルアップして自信を持つ、富と名誉を手に入れる・・・これでは増々シールのくっつけ合いになります。ルシアに教えられて、パンチネロは自分をつくってくれた彫刻家のエリに会いに行きました。エリは「パンチネロじゃないか! 会いに来てくれたんだね」と呼びかけ、自分の名前を知っているのに驚くパンチネロに「もちろん 知ってるさ。わたしがおまえをつくったんだからね」と言います。そして「...みんながどう思うかなんて 大したことじゃないんだ。問題はね、このわたしがどう思っているかという事なんだよ。そしてわたしは おまえのことを とてもたいせつだと思っている」。私をつくって下さった方にとっては、私の命そのもの、存在そのものが大切な



んだという事を理解するところで、人の評価に左右されないで生きる力を得ることが出来るのではないかと考えます。

金ぴかのご褒美シール、灰色のだめじるしシールが時に必要と考えるかも知れません。しかし、子は「あなたのことをとても大切に思っているよ。愛しているよ」の親の言葉があれば、人の評価から自由になれる、羽ばたけるのではないのでしょうか。

望月鈴子

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。(聖書)